

2025 年度 大阪 YMCA 総合教育センター サポートクラス

ボランティア養成講座のご案内

大阪 YMCA サポートクラスでは、1996 年度より、LD（限局性学習症）およびその周辺（知的に大きな遅れのない自閉スペクトラム症など）の子どもたちへの全体的な発達への支援に取り組んでいます。こうした子どもたちの特性を理解し、寄り添い、支援をサポートして下さるボランティアの方を募集しております。子どもたちの特性の基本理解や具体的な援助の仕方、ボランティアとして必要なことについて、下記の講座を行いますので、ぜひご参加ください。

日 時：2025 年 4 月 12 日（土） 10:00～12:00（受付 9:30～）

会 場：大阪 YMCA 会館（部屋については、当日 1 階ロビーの案内を参照ください）

対 象：18 才以上で、ボランティアとして活動する意志のある方

定 員：20 名

参 加 費：無料

申込方法：お電話、もしくは右記受付専用フォームからお申込みください

大阪 YMCA サポートクラス TEL 06-6441-5070



受付専用フォーム

10:00 11:30	《発達障がい理解講座》 『LD およびその周辺の子どもの基礎理解と対応』 講師：加藤 義弘（言語聴覚士） 大阪 YMCA サポートクラス講師 堺市教育委員会 外部専門家
11:30 12:00	《ボランティア説明会》 ① サポートクラス 各プログラムの説明 ② サポートクラスでの援助の仕方および活動内容について ※ 説明会終了後、ご希望の方にはボランティア登録をしていただきます。

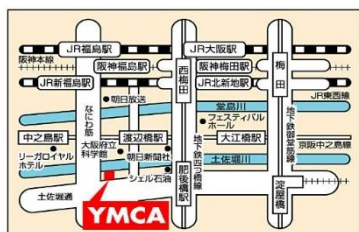


加藤 義弘

教育機関の巡回相談や研修講師多数。わかりやすい指導や説明は子どもたちだけでなく、保護者からも大きな信頼を得ています。

【サポートクラス活動内容】

クラス名	クラス内容	対象	活動日
てくてく幼児クラス	就学に向けて練習を積む	年中・年長児	週 1 回（火～金の午後）
てくてくクラス	学習の基礎を身につける	小学生～高校生	週 1 回（火～金の午後、土曜日）
サタデークラブ	仲間作りを楽しむ	小学 4 年生～中学生	月 1 回（土曜日の午後）



* アクセス *

大阪市西区土佐堀 1-5-6 4 階

地下鉄四ツ橋線肥後橋駅 3 番出口より 徒歩約 7 分

京阪渡辺橋駅より 徒歩 7 分

地下鉄御堂筋線・京阪淀屋橋駅より 徒歩約 15 分

クラスの詳細は、ホームページをご覧ください。



ボランティアの活躍

サポートクラスで活躍されているボランティアの皆さんは、「大学での学びをもっと深めたい」「普段の仕事とは違う形で社会貢献したい」「退職後も誰かの役に立ちたい」と様々な思いを胸に、YMCA に集っています。ボランティアの皆さんの存在は、子どもたちに学びや活動の広がり、安心や楽しさをもたらしてくれています。サポートクラスは、通っている子どもたち、保護者、そしてボランティアの皆さんが“ともに成長していける場”であることを目指しています。

てくてくクラスボランティア（大学生）



大学1年生からボランティアリーダーとしての活動を始め、4年目になります。**発達支援に興味があった**ので、自分自身の学びのためにサポートクラスにも参加し始めました。少人数のサポートクラスは、**子どもたち一人ひとりとしっかり向き合う**ことができます。講師の先生は**子どもたちの苦手さをよく理解し、丁寧に寄り添い**ながら問題解決を図っています。その素敵な関わりを間近で見ることができる、刺激の多い場所です。これからもたくさんの子どもたちや先生方と学び、成長し続けていきたいと思っています。

てくてくクラスボランティア（大学生）

教育系の大学で心理学や福祉を学んでおり、授業の一環でボランティアに参加しています。苦手さを抱えた子どもたちに対し、上手にサポートできるのか不安でしたが、実際に関わってみると**子どもたちの変化や仲の深まり**を身近で感じることができています。クラスの中で困ったこと、不思議に思ったことがあれば、**講師の先生と情報を共有し助言をもらえる**ので、安心して子どもと関わるすることができます。大学で学んだことの理解も深まり、子どもと接することに少しずつ自信がついてきています。



ステップアップクラスボランティア（大学生院）



母から教えてもらったことがきっかけで、サポートクラスでのボランティア活動を始めました。何ヶ月も一緒に活動していると、**以前は答えられなかった課題に解答することができていたり、先生からの指摘を受け入れることができるようになっていたり**と、子どもたちの成長を感じることができます。子どもたちの頑張って取り組む姿や成長し続ける様子を見て、将来、自分自身も**「苦手さを抱える子どもやその家族と関わりたい、支援をしたい」**という目標を持つことができました。